

5年古典（古文） 漢文プリント②

I 「逆鱗に嬰る」書き下し文の【 】の部分を用いてみよう。

夫れ竜の虫たるや、柔にして狎らして騎る【 】。然れども其の喉の下に逆鱗の径尺なる有り。若し人乏に嬰るる者有らば、則ち必ず人を殺す。人主にも亦逆鱗有り。説く者能く人主の逆鱗に嬰るること無くば、則ち幾し。

II 「逆鱗に嬰る」口語訳の【 】の部分を用いてみよう。

（口語訳）

【 】竜の動物としての性質は、従順なので飼慣らして【 】。【 】その喉の下に直径一尺の逆さまに生えたうろこがある。もし人でそれに触れる者がいたならば、（竜は）必ずその人を殺す。君主にもまた逆鱗がある。自分の意見を述べる者は君主の逆鱗に触れないようにすることができれば、成功したのに近い。

※ 漢文の習得「夫」（p115）「可」（p98）「然」（p27）「如」（p64）「能」（p134）参照（Teams10 回生「古典 B」に該当ページのファイルをアップロードしてあります）して、口語訳を考えよう。

III 「逆鱗に嬰る」の最後の一文について、韓非の主張とはどのようなものか、わかりやすく説明してみよう。